グループ別研修　ICT 班　実践報告

中学部

児童、生徒・クラスの実態	・発語がないことで自分の意思を思うように伝えられず、かんしゃくを起こすことがある。 ・昨年度の国語の授業ではひらがなが書かれた文字ボードを使用して学習していた。ひらがなの 50 音を理解し、一音ずつ発声すると、文字を探して指で指して知らせた。
指導目標	・アプリを使うことに慣れ、日常的にコミュニケーションツールとして活用できるようになる。
場面や授業	・国語の授業（50 音の発声、いろいろな単語を音声に変える） ・学級活動（号令、日直の司会）
使用したアプリについて	アプリ名（　かなトーク　） ・入力された文字を読み上げる、音声発声型意思伝達アプリ
児童、生徒・クラスの様子や変化	・最初は、アプリの操作に戸惑って苛立ちを見せることもあったが、授業の様々な場面でアプリを使用することで操作にもなれ、自ら iPad を出して欲しいと要求することもあった。 （号令） （国語）
アプリを使ってみて（感想や反省、今後知りたいことなど）	・入力した文字がすぐに音声に変換されることで、自分の目と耳で文字の確認ができた。 ・iPad の操作に慣れることで、国語以外でもスムーズにアプリを活用できている。 ・今後は、自分の意思を簡単な言葉で伝えられるようになることで、パニックにつながる不安やストレスを減らし、落ち着いて生活できるようになってほしい。